

夏だから

川で遊びたい!

7月21日(土) こどもエコクラブ

多摩川で漂流体験と野鳥の観察をしました。夏休み初日ということもあり、32人と多くの子どもたちが参加!

まずは双眼鏡の使い方から学びます。目標を双眼鏡で捉えるのは大人でも至難の業。子供たちは何度か試しているうちにコツをつかんだようでした。河原を歩きながら野鳥や魚、昆虫の観察。コサギやアユ、かわいいカルガモの赤ちゃんを見ることができました。



お楽しみの漂流体験は午後から。昼食を食べた後、ライフジャケットを着て準備完了。曇りがちだった空からも日が射してきました。まずは、二ヶ領堰上の流れがあまりないところで川の生き物の採取。採れたのは大きなザリガニや魚。次に堰下の少し流れの速いところへ移動して漂流体験。流れに身を任せれば簡単に体が流れていきます。キャーキャーと楽しそうな声が多摩川に響き、子供たちは何度も何度も川流れを体験していました。夏休みの思い出の一つとして良い経験ができたのではないのでしょうか。〔環境政策課 早野〕



7/22(日) わたしのまちの川調査

調布地域協議会の主催する野川の生き物調べが行われました。御塔坂橋付近で講師の和波先生に教わりながらの水質検査。リン・チッソ・アンモニア・亜硝酸・CODの含有率を調べる。結果は硝酸の量が多かったが、都市河川では大体高い割合になる物質で、それほど問題は無いとのこと。その後、佐須用水の流れ込む細田橋に移動。検査結果はリンがやや少ない上、清流に棲む魚の姿も見られました。(鍛冶)

少し大きめの石の前に網をあて、足でかき回すと、水生生物のヌカエビやモツゴ、ザリガニなどが沢山出てくる。子どもも大人も楽しい!

(野川細田橋下)



調布の自然 昆虫編 ハイイロゲンゴロウ

梅雨に加えて、例年よりも早い台風の影響で、はっきりしない天気が続いています。気分的には鬱陶しい時期ですが、この時期の降雨がなければ、農作物の生育にも影響が出てしまうので、降らなければ降らないで、やはり問題です。調布市内にも、面積は少ないものの田んぼがあり、梅雨時の降雨を必要としています。

ところで、湯水になって困るのは、田んぼに育つ稲だけではありません。春から夏にかけて水が張られる田んぼの中には、トンボの幼虫であるヤゴや水生半翅目(水生カメムシ目)の仲間ミズムシやマツモムシ、水生甲虫類の中でも小~中型のゲンゴロウ類やガムシ類が出現し、これらは調布市内でも比較的多く見ることが出来ます。

この中の一つにハイイロゲンゴロウがあります。本種は体

長1~1.7cm程度の中型のゲンゴロウで、体の地色が淡黄褐色のため、田んぼの泥底でじっとしていると、以外に見つけにくくなっています。ただ、動きは非常に活発で、すぐに泳ぎ出すため、待っていれば見つけることができます。本種は他のゲンゴロウ類に比べて水生植物のない環境を好むことが特徴で、平地の池沼や貯水池、プール、水田や小さな水たまりなどにも生息しています。また本種は、他のゲンゴロウ類にはない、「水面からいきなり飛翔する」という特技をもっていますので、ぜひとも一度、ご覧になってください。(石川和宏)



交尾するハイイロゲンゴロウ

環境政策課の窓



7月8日(日), 多摩川周辺の植物を観察する環境モニター活動に同行するため, 多摩川市民広場へ再び向かいました。

前回6月10日は, 始まって早々雷雨に打たれ, あえなく中止となっていたので, 今回も天気の様子心配でしたが, あまり暑くもなく無事に開催することが出来ました。

メンバーの方と一緒に多摩川周辺をのんびり歩いていると, 日常生活では見落としてしまうたくさんの植物を目にします。そこには私が生まれるはるか以前から自生している植物や, 人がどこからか持ってきて植えた植物が花を咲かせています。

多摩川の流れに見入っていると奥の方に赤い斑点を発見!

よく見つめてみると大きな錦鯉が元気に泳いでいました。一見のどかな風景ですが, 特定外来生物の持込はその生態系を破壊しかねない危険性ははらんでいます。

また, 今年は水不足も心配されていますが, 昨今の一時的な豪雨も温暖化の影響で日本も熱帯地域のような天候になってきているのではと本当に心配です。今ある美しい環境を守るためまずは省エネ, 私も七月はエアコンを使わずに頑張ります。

(小松昭博)

チガヤのこと

(調布生まれの榎本さんのお話を元に)

「ここいらのお盆の行事は8月1日にやっていたこともあったけど, まだ農家の仕事が忙しく, 結局 8.13~8.15 にやるようになった。仏壇の前に盆棚を作るのだけど, そこに使うチガヤは2日位前に多摩川に採りに行って1日干して丈夫にする。それを縄にして盆棚の4隅に立てた竹にからませたり, 竹と竹の間にしめ縄のように渡すんだ。台の上には仏壇の位牌とナスやキュウリの馬(その足には麻殻を買って使った) まんじゅうやホオズキを飾った。今でも飾りつけをしている農家はあるけど, 多摩川のチガヤは減ったから確保するのが大変だ。6.25には布多天神で茅の輪くぐりの祭事をやっている。夏を元気に乗り切るための行事なんだ。」

チガヤは万葉集にもよまれ, 日本の古典文学には「茅」や「茅花」としてよく登場します。茅の輪くぐりも須佐之男命(スサノオノミコト)が, 蘇民将来(ソミンショウライ)に一夜の宿を借り, 厚いもてなしを受けたお礼にカヤで作った輪を授け, そのお陰で疫病を払い除けることができたことから行われるようになったと言われてます。刈り取っても回復が早く, 強靱な地下茎はしっかりと土壌を緊縛するため河川堤防法面の芝にかわる植物としても注目されているそうです。若い花穂(成長すると白い綿のようになる)は, かじると甘いので, 子供の頃ガムのように口に含んだ人も多いようです。(環境モニター NK)



調布の雑木林でも ヤマユリの季節。

子供の頃の夏休み, 田舎へ向かう車窓からヤマユリが見えると「田舎へ行くんだ」とワクワクしたものだ。調布の雑木林にもまだまだ残るヤマユリ。この土地がいつまでも残されますように...

環境モニター

7/8(日)曇り 9:30~12:00
多摩川ワンド 7名+3名

先月は大雨のためワンド観察が中止になり, 今日ハリベンジ。久しぶりに来てみるとワンドの水が流れ出す所がふさがれたようになっていたり, 本流には小さい中州ができていたり, 川のように以前とは違ってました。観察の途中, ヘビのヌケガラを3匹も発見。コアシサシが元気に飛ぶ姿も見られた。

マコモが緑色の穂を出し, 真盛り。

カワジャはオオカワジシャに負けてしまうのか, あまり多くない。小さい方の水溜りにはメリケンガヤツリがかなり繁殖。ビックリするほどこんもりと花をつけたニガクサ, めずらしく, 小さいながらしっかりと

花を咲かせているメハジキなども観察できた。

最後にタコノアシといわれる希少植物も発見できて大満足。花の時期にぜひもう1度観察したい。



今のところなんの変哲もない植物。秋の花が楽しみ!

カニ山の会

7/14(土)雨 10:00~11:30
参加者5名

台風の接近にともなう雨の中, カニ山キャンプ場北部分, 都が買い上げた敷地内の伐採木を運び出した。管轄は神代植物公園ということで,

承諾を頂いて, 数十本を東樹林地へ。ほとんどがツバキなので, チャドクガの発生を抑えるためと, 今後の整備のために伐採されたらしい。

敷地内の半分は数ヶ月前に伐採されたらしく, もうクズなどで覆われていたが, 残りの半分にはシデヤイチョウの実生, ヒヨドリジョウゴが見られた。

次の活動は保管した材を使って, 樹林地と周りの歩道をはっきり分ける作業をする予定です。



伐採木を囲いの中から持ち出した

石っこらむ 5

布田小学校長
寺木秀一先生の
連載コラムで

粒をみればでき方が分かる 砂岩

ふつうはさがんと呼んでいますが、正しくはしゃがんと読むようです。このコラムで最初にふれた閃緑岩以外はすべて堆積岩のなかまです。この砂岩ほど、どのようにしてこの石ができたかがはっきりわかる石はありません。砂岩ばかりでなく堆積岩は二次的にできた岩石といわれます。別な堆積岩や火山活動でできた石(火成岩)が風化・浸食され細かい粒の砂になり() 川の水で運ばれ、再び海底で(まれには湖底で)堆積したのが砂岩の元になる、砂層です。さらにその砂層の地層が陸上に現れ、風化・浸食され、その過程で丸みを帯びた石ころとなって、私たちの目の前に現れているのです、さらに小さくなって砂粒になればまた まで戻ります。地質学では 1/16 mmから 2mmまでの大きさの粒を砂としています。

白っぽい砂岩の粒は石英の粒です。その割合が多いと白い砂岩、少ないと、あまり多摩川にはありませんが黒っぽい砂岩になります。

多摩川の砂利として、東京都のビル建設や道路建設に役立ったのはこの砂岩がほとんどでした。



砂岩(しゃがん)

水のお話 佐須用水編

佐須用水の環境は...

前回の続きです。6、7月頃の用水清掃を見学する機会があれば分かりますが、廃棄物として一番多いのはなんと「土」です。神代農場や自然広場の草木が生長した後の枯れ草や落ち葉、水の浸食で削れた土砂、用水の途中に生えた水草、雨水と共に用水に流れ込む周辺の畑の土などが佐須用水に溜まっていきます。また、レジ袋とともに捨てられたゴミ、空き缶、ビン、コンクリート、ブロックや石などがあり、きれいな湧き水も次第に汚れていきます。

そしてこのような環境を生活場所とするザリガニ、ヒル、ミズムシなど「汚い水にすむ生き物」たちもこの用水に暮らしています。水源からわずか1kmほどで野川に流れ込むまでに、きれいな水に住むホタル等の生き物が共存する珍しい湧き水が佐須用水の特徴といえます。上流の田んぼや畑で使われた農薬混じりの水は用水路に戻らず、地面にしみ込むか下水に流れるため、ほとんど下流を汚染していないことも、生き物が生息できる要因となっているでしょう。

しかし、コンクリート3面張りの水路は生物が生息する環境を単一化し、また野川との合流地点の落差は、水生生物の行き来を阻害するために生物多様性は向上しません。佐須用水は「水」のつながりだけを見れば閉じた生態系です。また、調べていて気になったのはその水量です。(こんどう)

今回は「調べていて驚いたその水量」です。



佐須用水で泥だらけになって遊ぶ

ちょうふあちこち

深大寺元町 3 丁目

今年も深大寺の緑の保全地区にある竹林にサギのコロニーが形成された。7/20、斜面にある竹林を下から眺めると数十羽のサギが観察できた。実際は数百羽はいるのではないだろうか。フンや腐った餌など、近隣住宅への被害が指摘されているが、居心地がいいのか例年、同じ場所に営巣してしまうようだ。

白くて優雅な姿のサギ、野川で見かけると、心なごむものがあるが、何か良い方法はないものだろうか。



写真ではわかりづらいが樹冠に何羽ものサギが。

人間・樹林の会

7/15 台風のため活動中止
方形樫調査は 8 月に延期しました。

田んぼの学校

田んぼはとても手入れができています

7/16「生き物観察」と「一番草」を行いました。まず、生き物観察で子どもたちが見つけた生き物は約 10 種。それらを例に取り、無農薬の田んぼだからこそ小さな生き物たちの住める世界があること、またイネにとっての害虫と益虫、生き物たちの食べる食べられる関係、そして微生物が作る田んぼの土などのお話をしました。

一番草は、最初の雑草取りです。これは「根掻き」にもなります。稲

の間を歩くことで、土の中に酸素を含んだ水を送り込み、新しい根の成長を助けます。子どもたちの中には泥田に何度も入りたがる子や苦手で入れない子がいて、見ていてハラハラする場面もありました。これから稲が元気に育ちますように。

(田んぼの学校 こんどう)



泥に足をとられつつ一番草と根掻きをする親子

メンバー随時募集 環境市民 活動カレンダー & おしらせ

環境モニター

市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。

8月の活動はお休みです。次回は9/1(土)に野川中量の植物観察をする予定です。詳しくは次号の自然だよりをごらん下さい。

問合せ：環境政策課 042-481-7086

カニ山の会

8/11(土) 10:00~12:00

集合場所：深大寺自然広場(野草園横)

内容：樹林地外周整備

原則毎月第2土曜にカニ山東樹林の保全活動を行っています。活動に参加してみたい方は直接集合場所へおいで下さい。

会費500円+保険料500円(年間)

問合せ：環境政策課 042-481-7086

人間・樹林の会

8/19(日) 9:30~12:00

集合場所：人間地域福祉センター

内容：方形枠調査等

原則毎月第3日曜に活動しています。

問合せ：環境政策課 042-481-7086

ちょうふ環境市民懇談会・運営会議

8/20(月) 18:30~20:30

場所：調布市文化会館たづくり 304 会議室

内容：・環境市民懇談会の今後について

・秋のイベントについて

この運営会議にはどなたでも参加できます。

資料準備のため、事前に調布市環境政策課にご連絡下さい。(TEL:042-481-7086)

編集後記

この15年ほどで、多くの方が調布の自然環境保全に関わる市民活動に参加されるようになりました。「自分達の環境は自分達が守る」「持続可能な循環型社会の形成」などの活動に、どなたでも参加していただき、この自然便りにも新風を吹かせたいと願います。(こんどう)

森の博士になろう!

昆虫をつかまえて、先生のお話を聞いたり、ジャガイモを食べたり!夏休み最後に昆虫博士になろう!

開催日時 8/26(日) 10:00~12:30

参加 当日受付 参加費無料

補虫網や虫カゴある人は持参

ジャガイモを食べるための皿なども持参

場所 神代植物公園東地区エリア

(公園の外・5 差路西側の「都市森の丘」)

講師 小西正泰氏

主催：22 世紀の森づくり・神代

連絡先 弧嶋 0423-81-2112

「水辺の楽校」開校へ向けて

7/9 環境市民懇談会運営委員会に、調布水辺の楽校設立発起人会から、協力依頼があった。

懇談会としては、できるだけ協力していくことを決定し、7/11に行われた「第1回調布水辺の学校設立準備会」に運営委員1名が参加した。

「水辺の楽校」は小学校や地域のボランティア団体等が中心となって運営。設立の趣旨は、身近な水辺の自然環境に触れることで、子どもたちに自然の雄大さ、大切さを肌を通して感じてもらい、自然をいつくしむ心を学んでもらいたいというものです。この夏休み(8月)中にも「川に親しむ」イベントを俳優・中本賢さんの指導協力を実施予定。参加の呼びかけは学校を通じて行われる、とのことでした。

ちょうふ環境市民懇談会としては、今後、「多摩川の植物を学ぶ」等で協力していきたい。

カニ山のマヤラン



近頃どうも増えてきているような気がするマヤラン。腐生ランといって光合成で自活する能力がなく、菌類と共生して栄養素を得て生活する。そのため葉を持たない。絶滅危惧 1B 類と指定されているが、生育環境は温帯から亜熱帯の常緑広葉樹林の林床とのこと。温暖化と何らかの関係があるのだろうか?

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先:調布市環境政策課 tel 042-481-7086

E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

調布市ホームページでカラー版がごらんいただけます

市公式HP [くらしのガイド](#) [環境](#) [環境学習](#) [自然だより](#)

「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。